

リケンテクノス株式会社

2016年3月期 第2四半期

(2015年度上期)

決算説明会

2015年11月26日

- 決算概要
- 事業の概況
- 中期経営計画進捗状況と
今後の展開

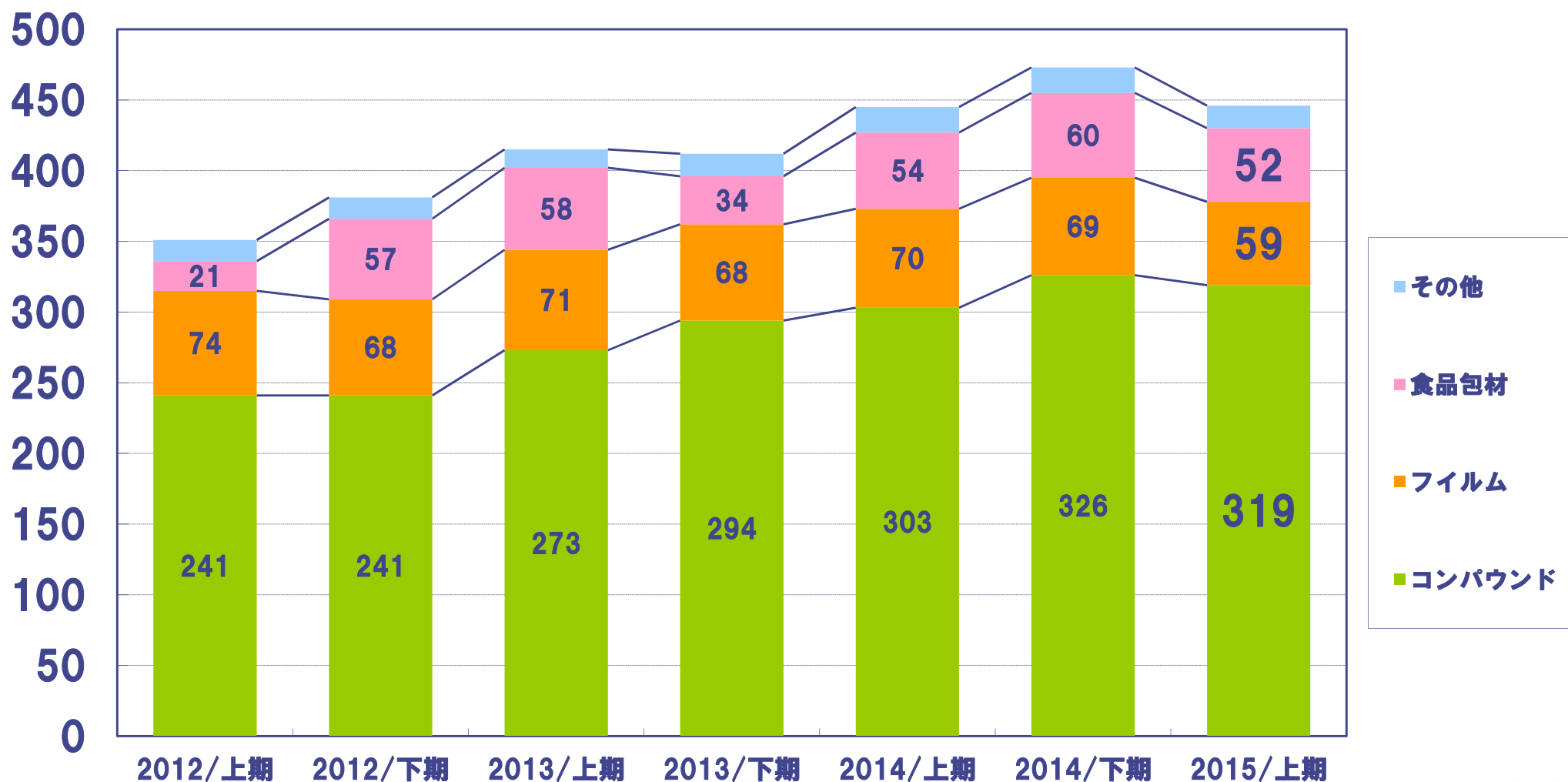
決算概要

単位：百万円、円

科目	2015年度 上期	2014年度 上期	前期比	増減率	2015年度上期 業績予想	達成率
売上高	44,628	44,578	+49	+0.1%	47,500	94.0%
売上総利益	7,400	6,729	+672	+10.0%	—	—
営業利益	1,963	1,652	+310	+18.8%	2,000	98.2%
経常利益	1,942	1,873	+68	+3.7%	2,100	92.5%
当期純利益	760	894	▲134	▲15.0%	1,050	72.5%
1株当り利益	12.70	14.95	▲2.25	▲15.0%	17.53	72.4%

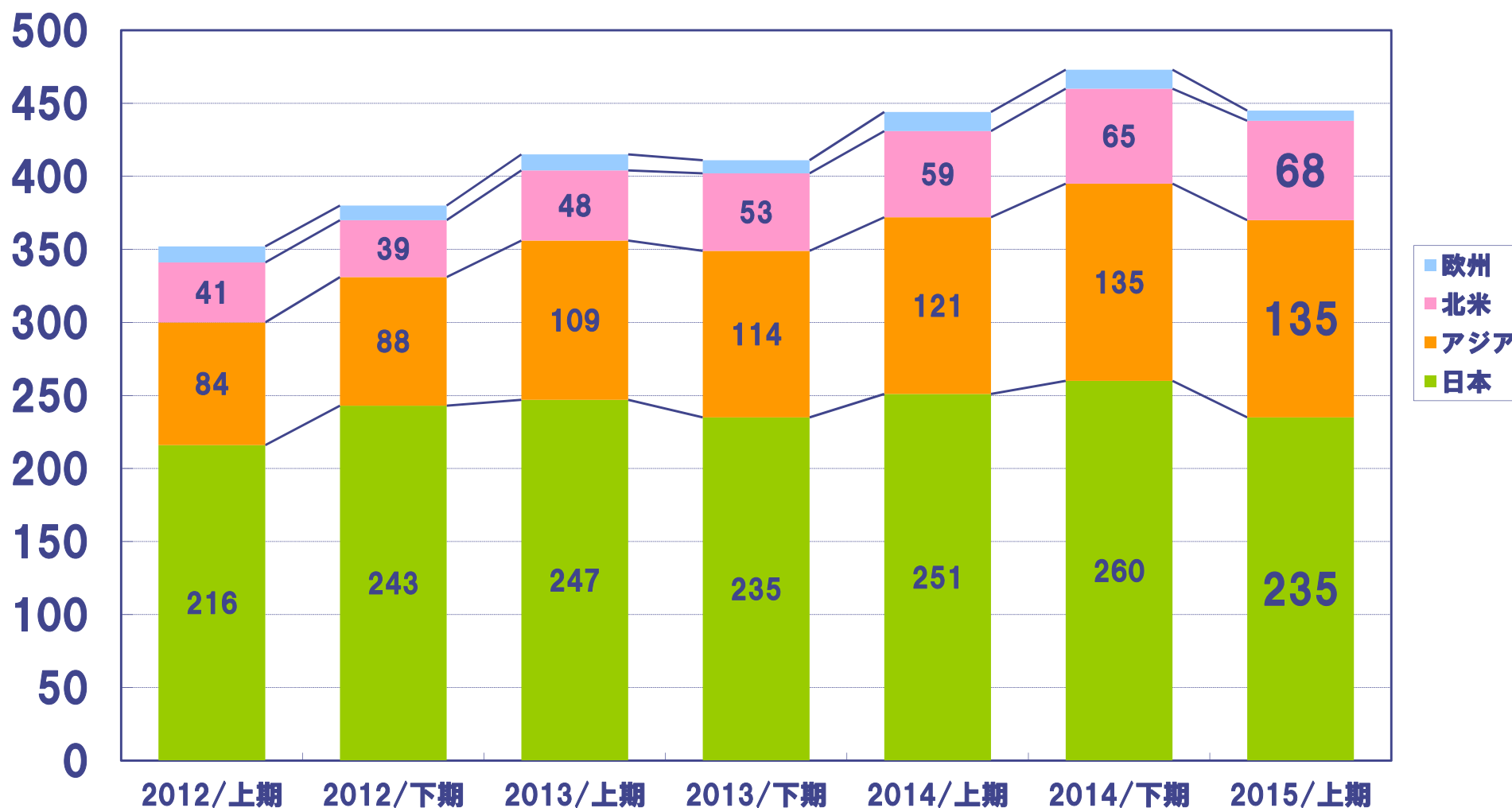
2015年度上期 売上高 446億円
前年同期比 49百万円増 (0.1%増)

単位：億円

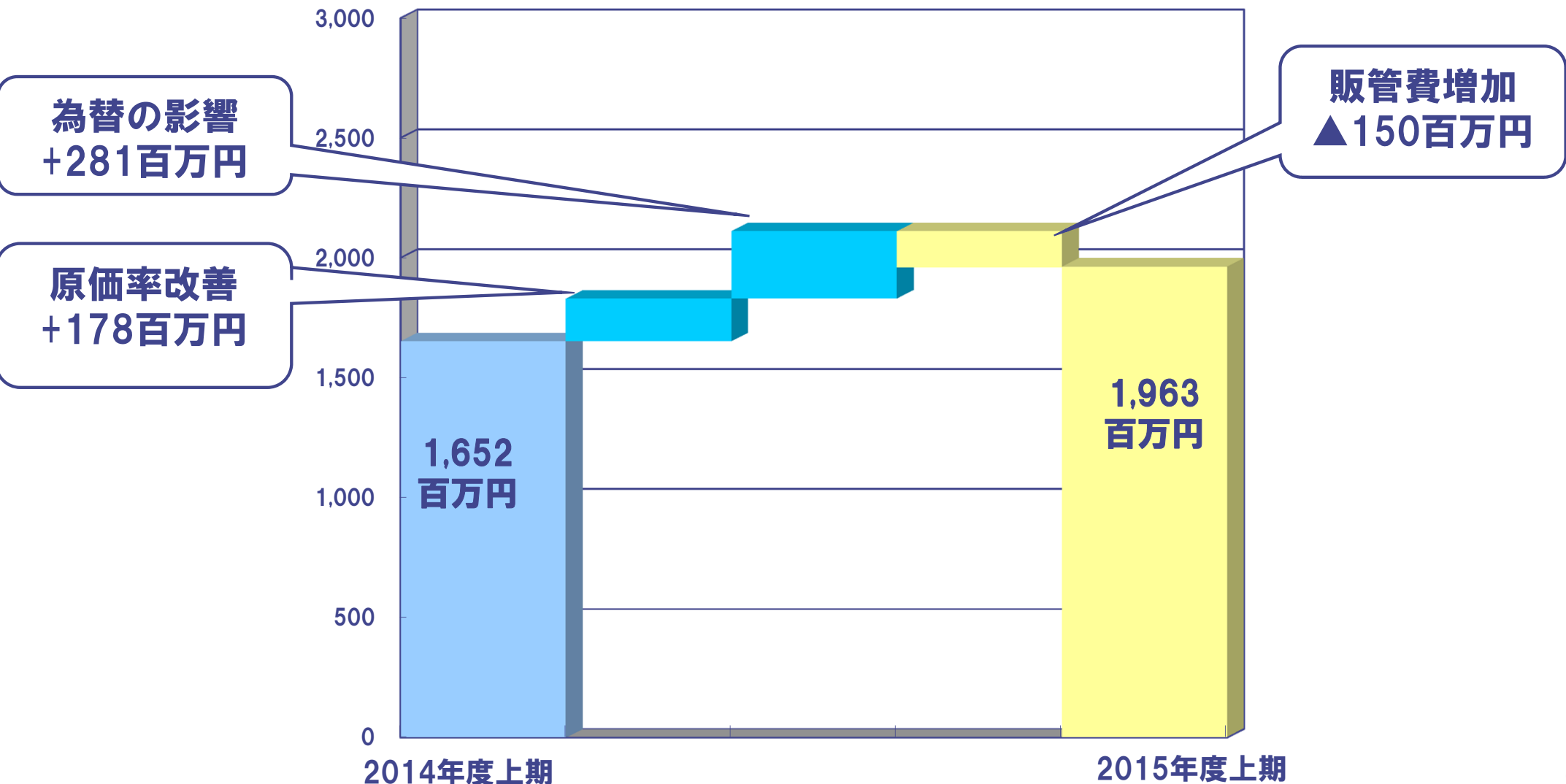


2015年度上期 売上高 446億円
前年同期比 49百万円増 (0.1%増)

単位：億円



営業利益 1,963百万円 前期比 310百万円増益



連結貸借対照表

キャッシュ・フロー計算書

単位：百万円

資産合計

83,912百万円

前期末比 2,174百万円減

流動資産 49,258百万円

固定資産 34,654百万円

負債合計

38,602 百万円

前期末比 2,260百万円減

純資産合計

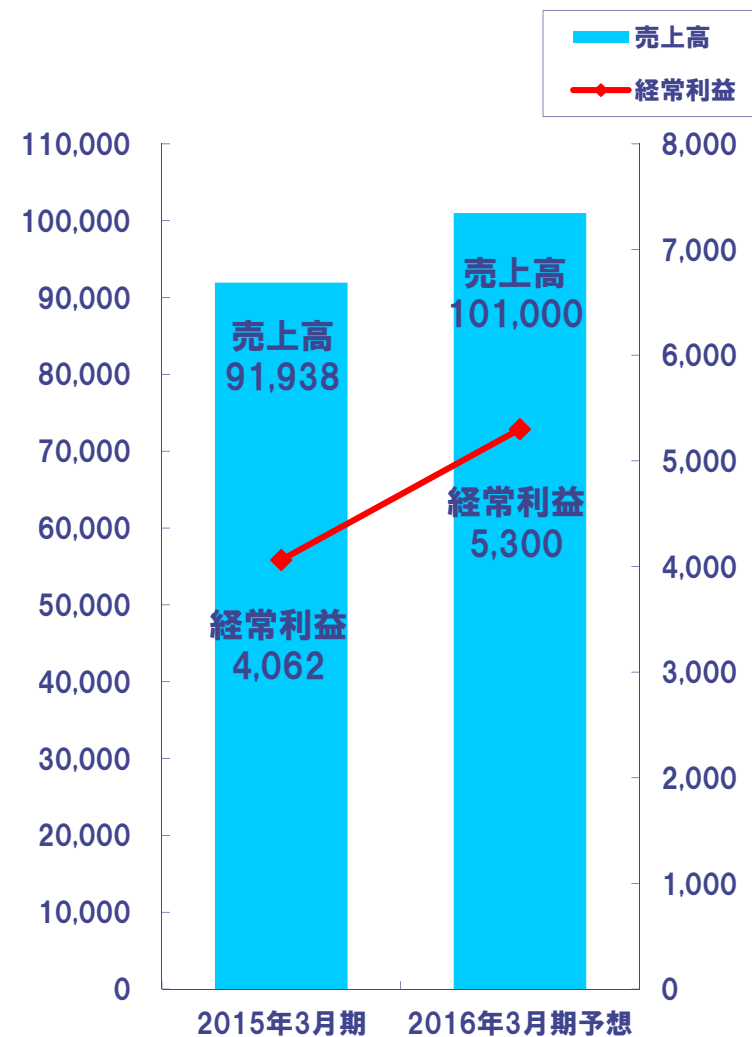
45,309 百万円

前期末比 85百万円増

	当期	前年同期比
営業CF	1,706	▲102
投資CF	▲1,798	▲412
財務CF	▲341	795
増減額	▲424	442
期末残高	13,556	2,725

(単位：百万円、円)

科目	2016年3月期 業績予想	2015年3月期 実績	伸び率
売上高	101,000	91,938	+9.9%
営業利益	5,000	3,652	+36.9%
経常利益	5,300	4,062	+30.5%
当期純利益	2,700	1,900	+42.1%
1株当り利益	45.07	31.74	+42.1%



【業績予想のポイント】

国内は、下期において景気底打感からの回復傾向にあると見られ、売上拡大を見込む。

海外は、市場環境が引き続き好調なことによる売上増加に伴い利益面でも量的に大きく寄与すると見込む。

事業の概況

ベトナムでのリケンベトナムカンパニー リミテッドでの工事進捗について



2014年11月に設立したリケンベトナムカンパニーリミテッドでは順調に工事が進み、2016年6月からの稼働を目指しております。

中国上海理研塑料有限公司の 増設起工式



2015年8月25日に中国上海市にある上海理研塑料有限公司にて増設のための起工式を執り行いました。2016年8月の稼働を目指しております。

・ 住 所：東京都千代田区神田淡路町二丁目101番地

ワテラストワー

・ 移転日：平成27年9月28日（月）

・ 移転目的：

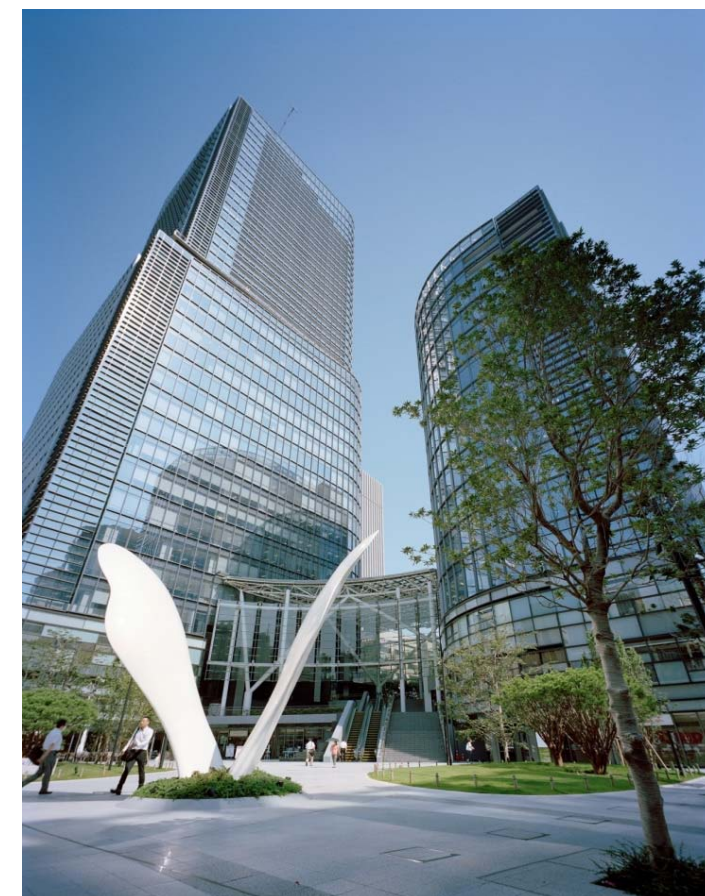
①グループ会社も含め1フロアに集約

→部署間・グループ会社間の

コミュニケーション活性化・一体運営推進

②全ての応接室・会議室にモニター・Wi-Fi完備

→ITツールを活用した書類削減・業務効率化





《東証開示：平成27年11月6日》

監査等委員会設置会社への移行

指名委員会・報酬委員会の設置

移行目的

取締役会の監督機能の強化

社外取締役の活用による経営の透明性・公正性の向上

業務執行権限の委譲による機動的・戦略的な経営体制構築

指名委員会 報酬委員会

①両委員会とも過半数を独立社外取締役で組織

②役員報酬制度の全面的見直しを実施（2016年度）

移行時期

2016年6月（定時株主総会で定款変更後に移行）

執行役員制度の導入

執行役員 制度概要

- ①選任、解任、担当業務は取締役会決議で決定
- ②取締役は、執行役員を兼任可能
- ③任期 1年

導入時期

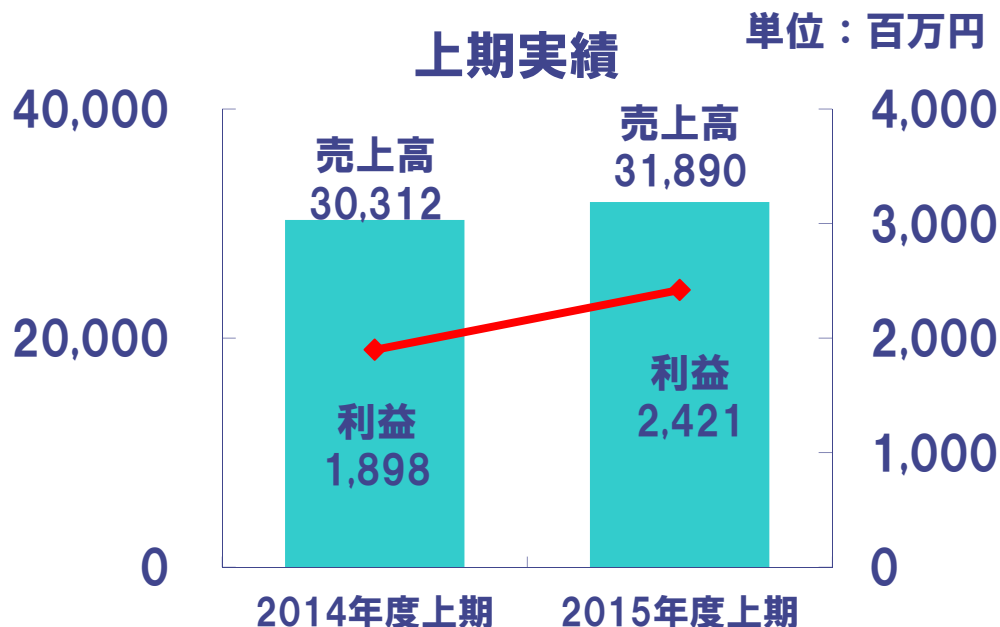
2016年4月1日

『コーポレートガバナンス・コード』対応

対応方針

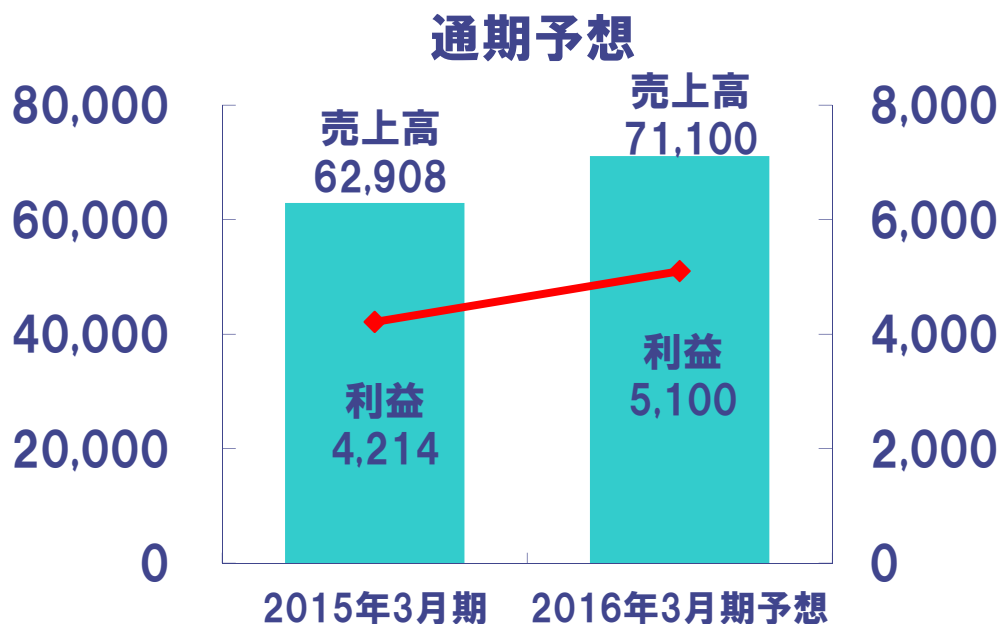
同コードの趣旨を尊重し、全ての原則につき十分な対応ができるよう継続的にガバナンス体制の見直しを実施
⇒グループ全体で実効的なガバナンス体制を構築

※詳細は、当社ホームページ掲載「コーポレート・ガバナンスに関する報告書」参照



1,577 百万円増収	522 百万円増益
前期比5.2%増	前期比27.5%増

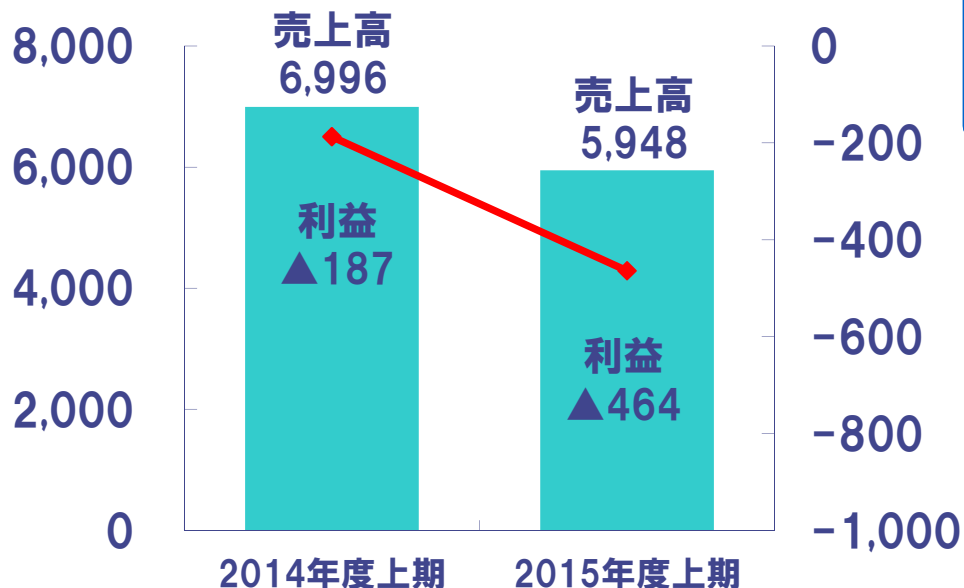
国内は、生活資材市場は拡販活動が奏功し売上が上伸。自動車市場は国内生産台数の落ち込みによる影響を受け苦戦。海外は、タイ国では自動車市場、インドネシア国では電線市場が堅調に推移。米国では自動車分野、住宅分野が好景気に支えられ増益。



8,192 百万円増収	886 百万円増益
前期比13.0%増	前期比21.0%増

国内は、建材市場は先行不透明感がぬぐえない。自動車市場は回復傾向にあり、塩ビ・エラストマーコンパウンド共に上伸見込み。海外は、引き続き好調を維持し、中国に景気減速傾向が見られるものの、増収増益の見込み。

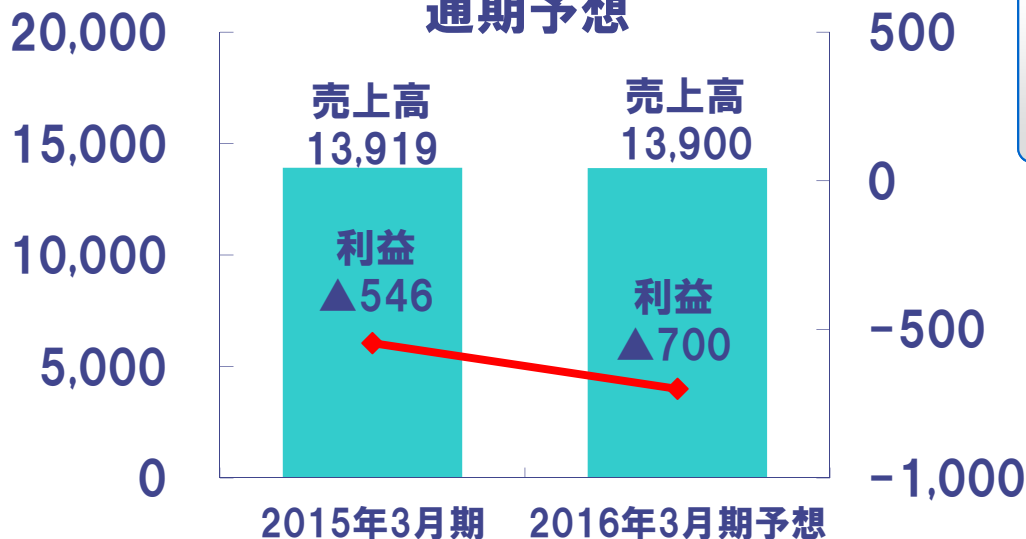
上期実績 単位：百万円



▲1,048百万円減収 ▲277百万円減益
前期比15.0%減

電材市場は、自動車用に加え一般機器用においても品質の差別化をはかり売上が上伸。建装材市場は、住宅着工件数に回復傾向が見られるものの、在庫調整の影響を受け苦戦。光学市場は、サンプルワークを継続し、一部流動を開始。新たなサプライチェーンの構築をはかる。

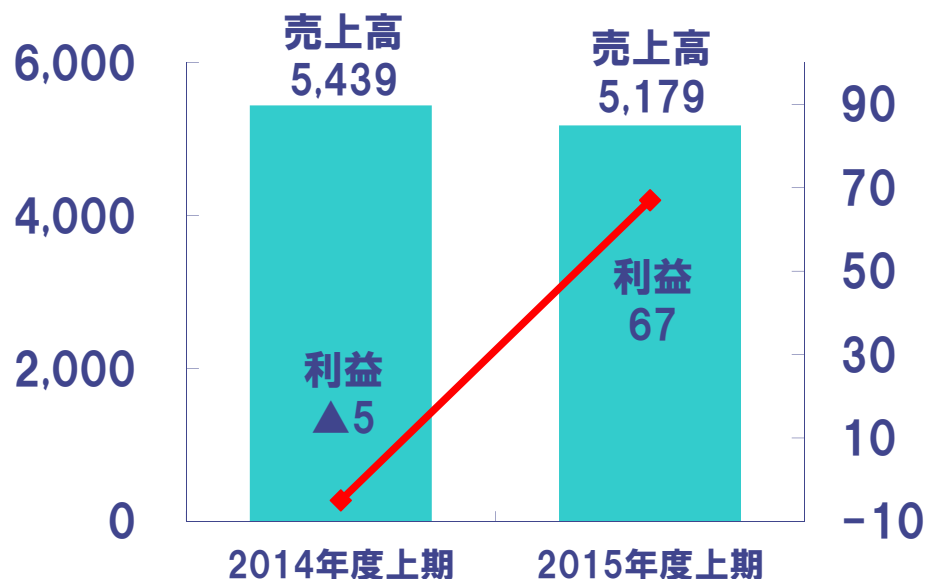
通期予想



▲19百万円減収 ▲154百万円減益
前期比0.1%減

国内では、建装材市場を中心に在庫調整が終わり、回復すると見込まれる。海外では、米国は堅調に推移する見通しだが、欧州は厳しい状況が続く。光学分野における新規事業の費用負担大きく、通期では赤字の予想。

上期実績 単位：百万円



▲260百万円減収 **73百万円増益**
 前期比▲4.8%減

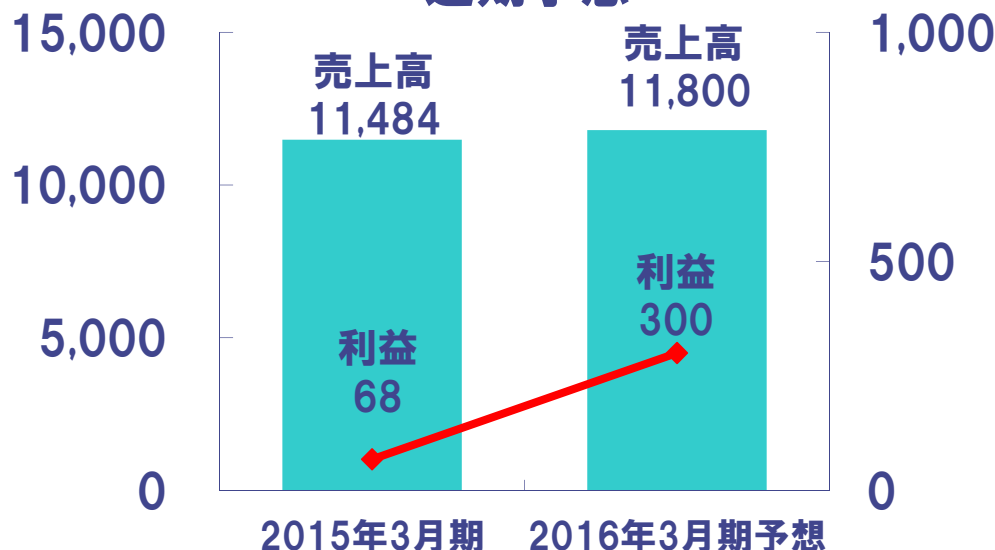
国内は、前年の消費税増税前の駆け込み需要の反動、消費マインドの冷え込みなどの悪条件が重なり売上が減少。

また、低採算商品の絞り込みを行なったことも減収につながりました。

収益は、原材料価格が比較的安定して推移する中で販売価格を維持できたことや、生産合理化をはじめとする諸経費の削減により改善。

海外は、中国で品質による差別化と代理店と連携した拡販活動が奏功し、増収増益。

通期予想



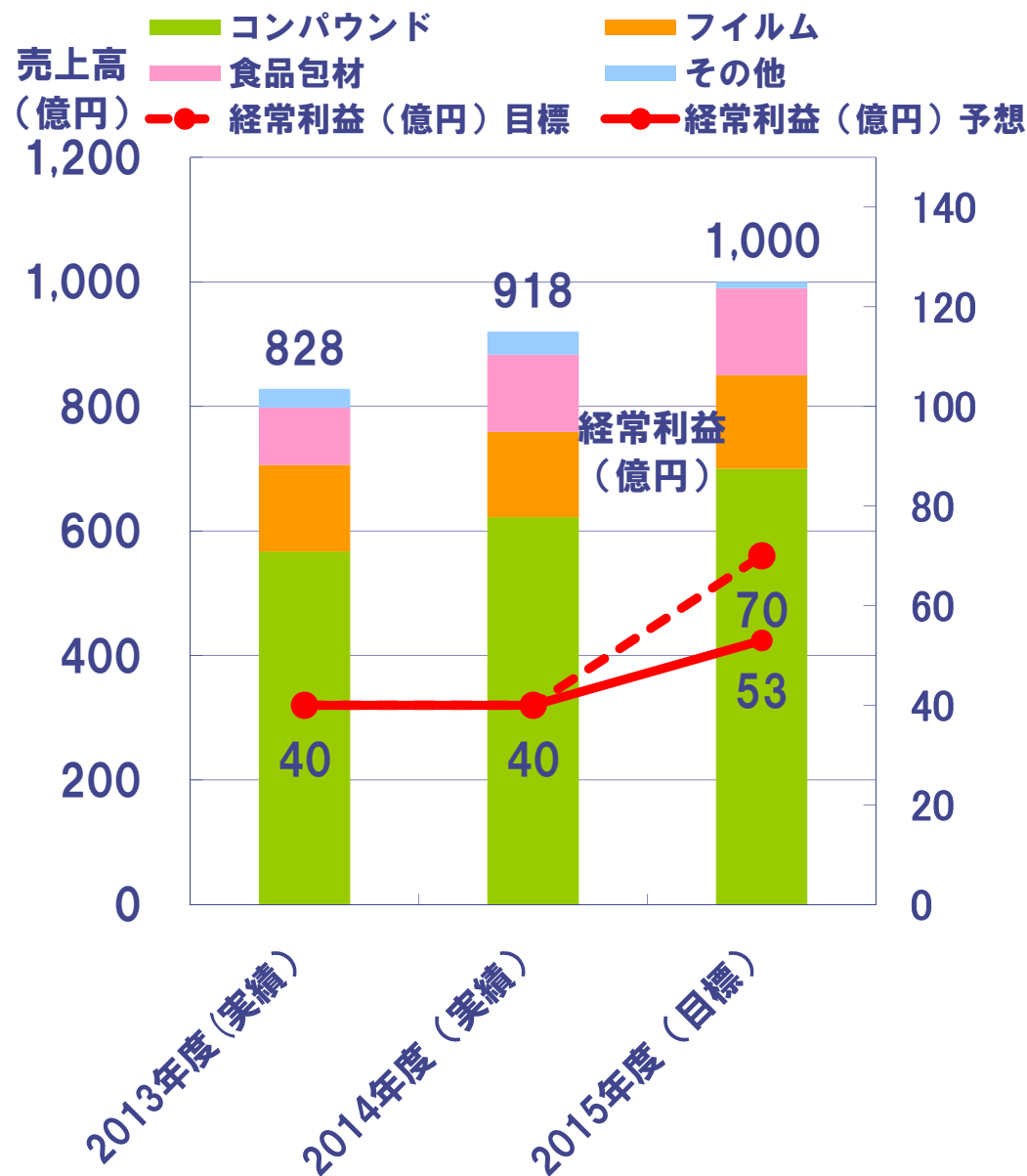
316百万円増収 **232百万円増益**
 前期比2.8%増 前期比341.2%増

国内は引続き低採算商品の見直しと生産合理化を進め、業務用塩ビの拡販をはかる。

海外は上期同様の拡販活動を継続し、増収増益の予想。

中期経営計画進捗状況 と今後の展開

(連結ベース)	2015年度 (最終年度目標)	2015年度 (業績予想)
売上高	1,000億円	1,010億円
営業利益	70億円	50億円
経常利益	70億円	53億円
当期純利益	40億円	27億円



2013年4月にスタート。進捗状況のレビュー。

コンパウンド事業の更なるグローバル展開

フィルム事業の抜本的な立て直し

最適な営業推進体制の構築

コンパウンド事業の更なるグローバル展開

この3カ年計画の中で着工した、または予定の設備総投資額（ ）内は、投資済額

中国

上海理研塑料有限公司

工場増設（塩ビ）

投資金額： 10.8億円（4.1億円）

稼働時期：2016年8月

北米

リケンエラストマーズコーポレーション
工場増設（エラストマー）

投資金額： 6.4億円（6.4億円）

稼働時期：2014年7月

ベトナム

リケンベトナムカンパニー

リミテッド工場新設（塩ビ）

生産設備導入

投資金額： 25.5 億円（16.5億円）

稼働時期：2016年6月

インドネシア

PT. リケンインドネシア増設、
設備改造（塩ビ）

投資金額： 8億円（8億円）

稼働時期：2014年11月、2015年9月

北米

工場増設（塩ビ）

投資金額： 27億円（12.5億円）

稼働時期：2016年7月

フィルム事業の抜本的な立て直し

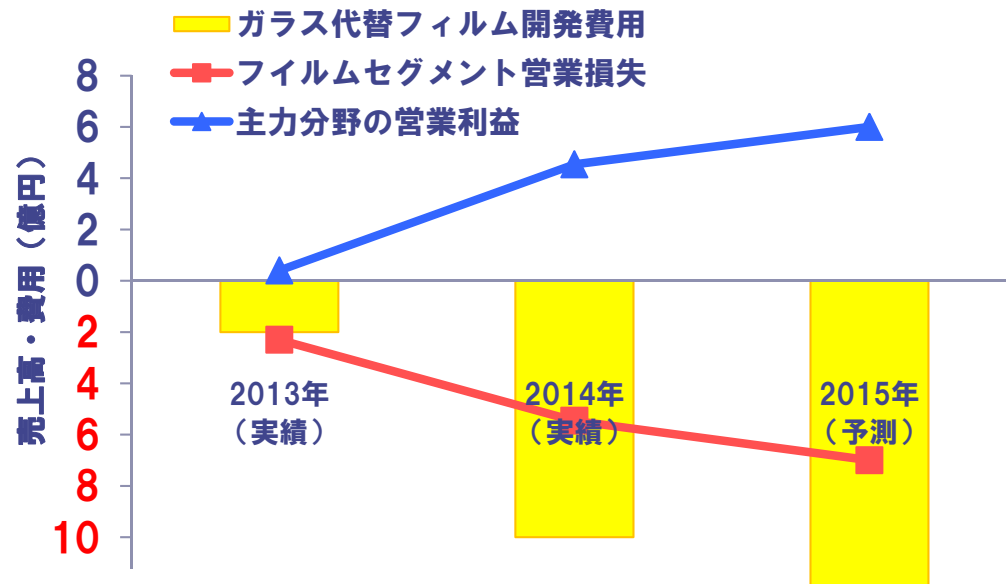
2014年度までの実績

- ◆主力事業での安定黒字化
- ◆フィルム海外生産 (OEM生産) 開始
- ◆新製品への開発注力、上市への準備

2015年度下期の課題

- ◆主力事業での黒字拡大
 - ⇒ 建材分野でのリフォーム・非住宅市場需要の取り込み
 - ⇒ **海外及び国内生産における最適な生産体制の構築と徹底したコストダウン実施**
 - ⇒ 様々な新製品の上市
 - ⇒ 海外販売戦略の強化
- ◆光学フィルムのディスプレイ市場への新製品の上市

フィルム事業 営業利益と開発費用



最適な営業推進体制の構築

製品別組織から市場別組織へ改組。2014年4月よりスタート。



自動車
市場



電材
市場



医療
ヘルスケア市場



建材・建装材
市場

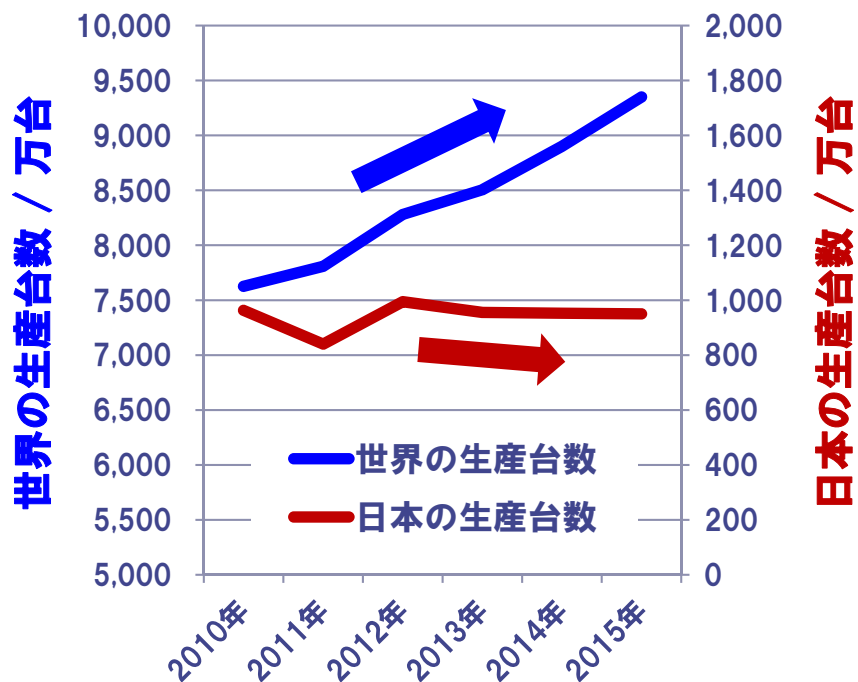


情報電子
市場



食品包材
市場

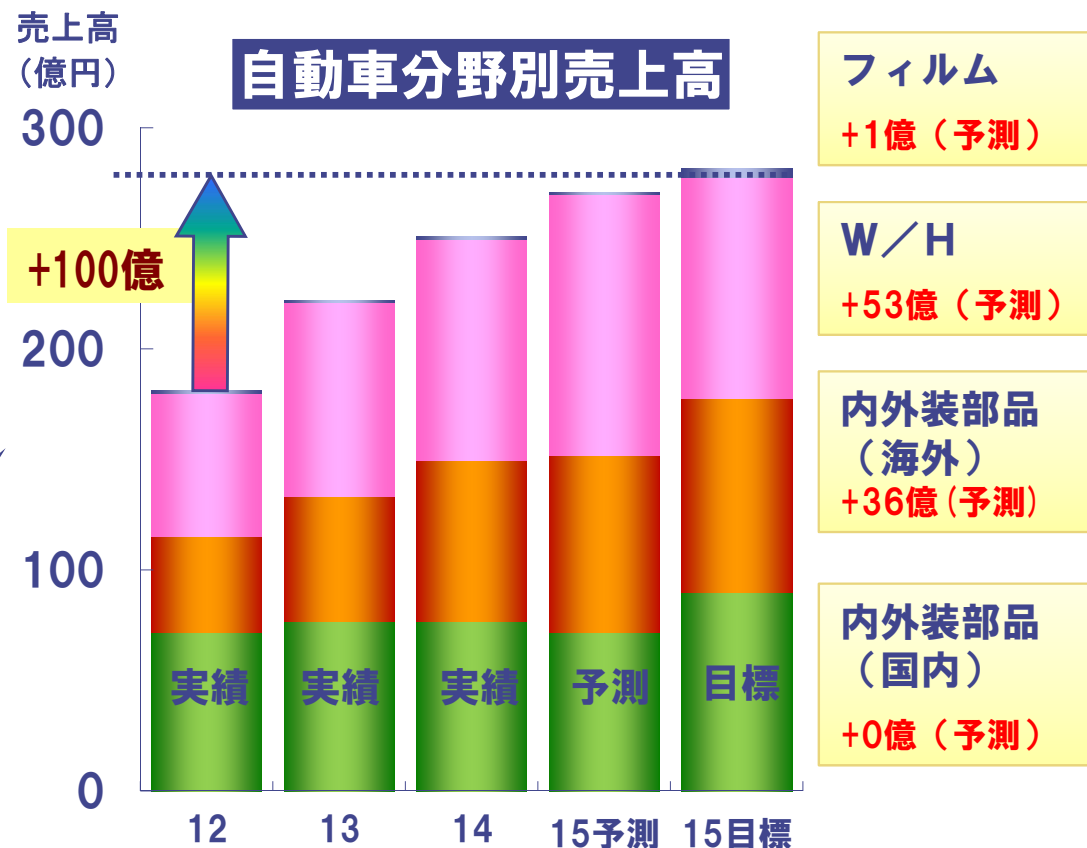
市場動向データ



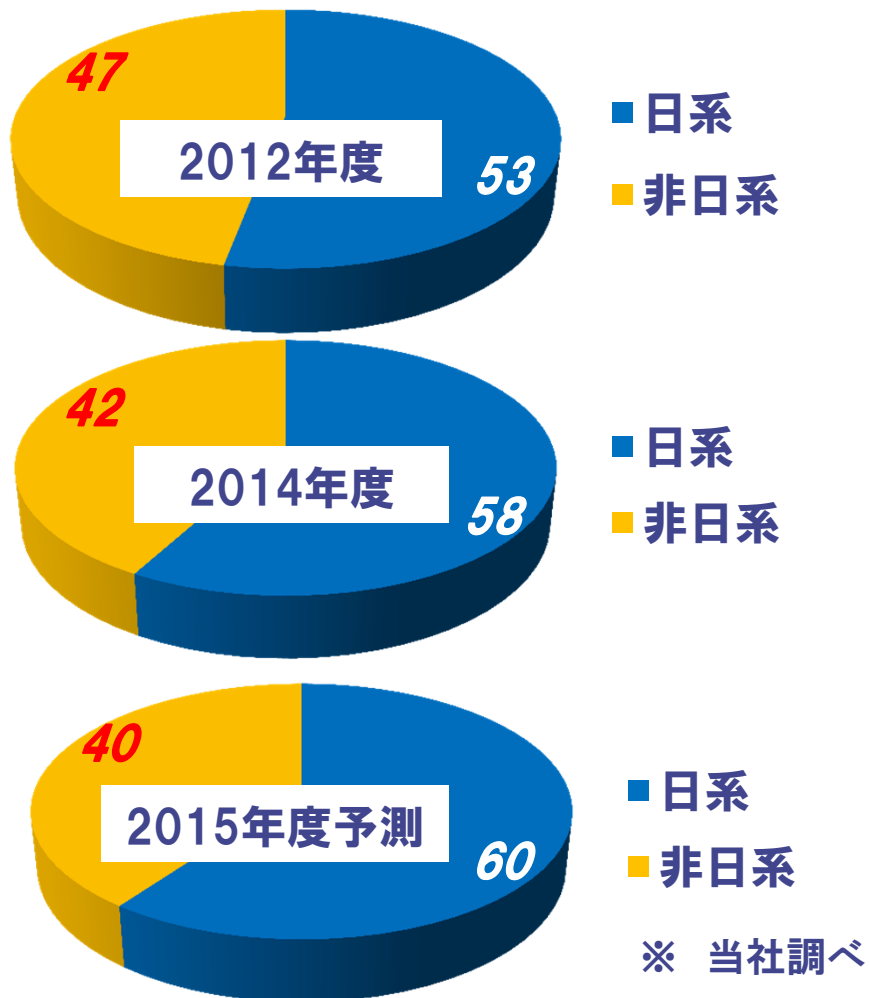
市場ニーズ(軽量化、PVC回帰)を的確に捉え、各分野の販売戦略にて、売上の拡大を進める。

自動車市場での売上目標

2015年度売上目標：280億円
 ⇒ 2012年度売上比：+100億円
 2015年度売上予測：270億円



ワイヤーハーネス市場シェア



生産台数増加の中、
日系メーカーの販売量が上伸

戦略

『品質』と『軽量化』のニーズに対応した技術開発力により、他社の追随を許さない製品供給を継続

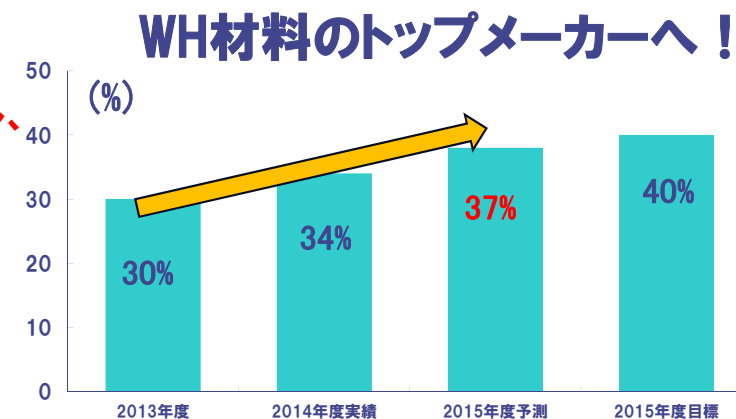
⇒日系W/Hメーカーのシェア拡大に積極的に貢献

・海外拠点の更なる拡充

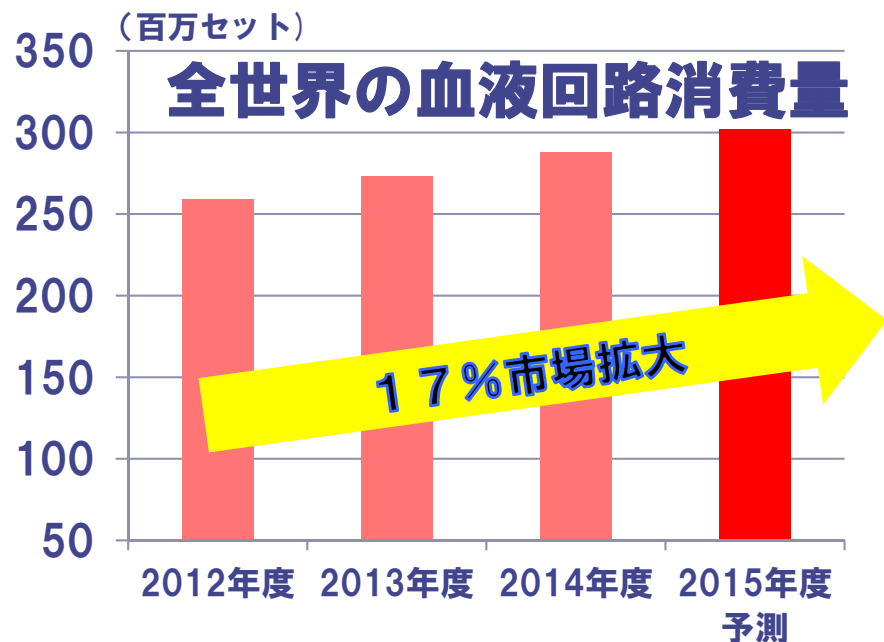
⇒最適生産拠点の確保

売上目標

- 2015年 売上
目標+35億円に対し、
+53億円の見込み
- 2015年 世界シェア
目標40%に対し、
37%の見込み



市場動向データ



拡大する血液回路市場

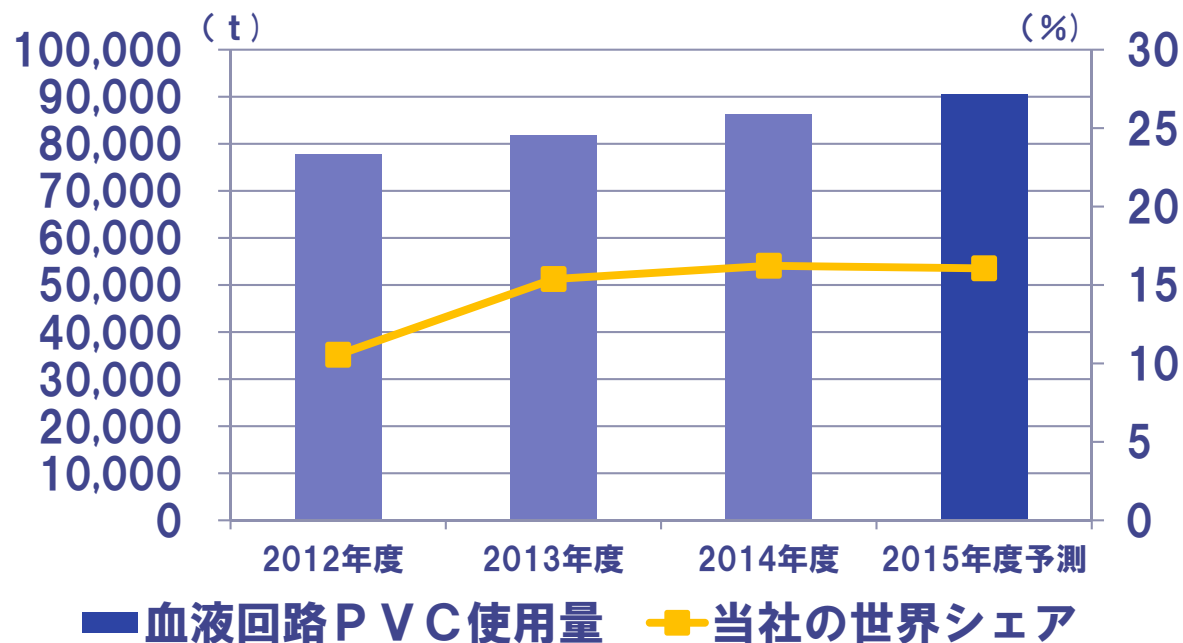
<先進国向け>

- 高齢化 ⇒ 医療機器に対する需要増加
- 医療技術の進展 ⇒ 先端医療機器の需要拡大

<新興国向け>

- 人口増加、経済発展 ⇒ 医療需要拡大
- 富裕層の拡大 ⇒ 先端医療機器の需要拡大

塩ビ(PVC)使用量動向データ



※ 当社調べ

売上予測

拡大する血液回路市場へ積極的拡販

世界シェア10% ⇒ 20%

2015年度予測 = 16%

ターゲット



血液回路

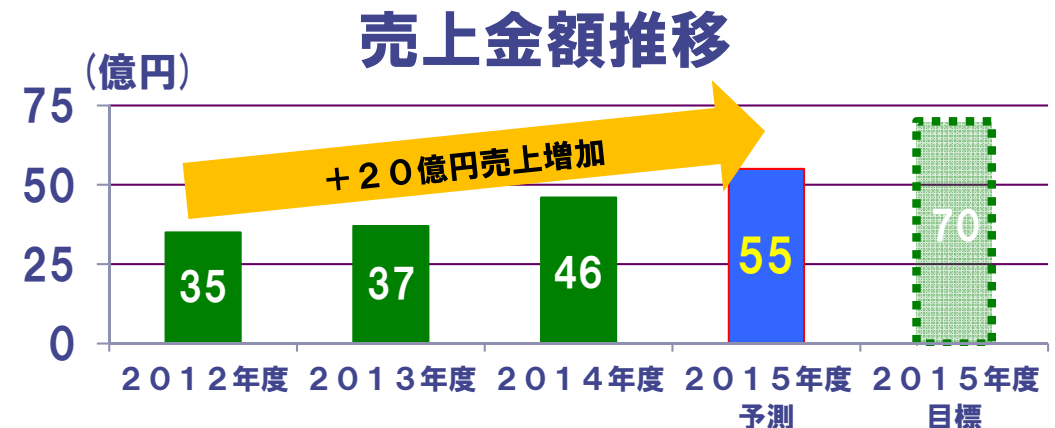
戦略

- ・日系メーカーとのパートナーシップ強化
⇒量的営業を実践により、**新規案件獲得**
- ・販売統括会社を活用した非日系メーカー（欧米・中国）への拡販
⇒リケンのネットワークを駆使
⇒**サンプルワーク開始**

当社の強み

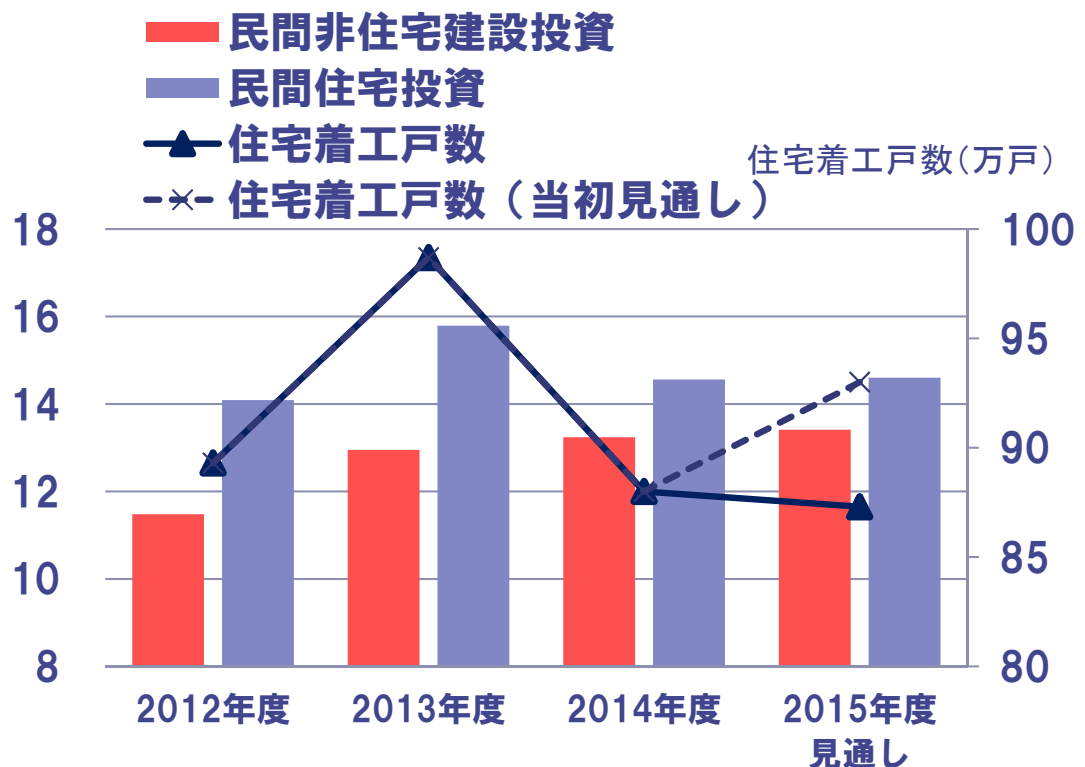
- ・各生産拠点から高品質かつ同一品質の材料を安定供給
⇒リケンの「**グローバル品質**」
- ・各生産拠点に最適な原材料を調達
⇒リケンの「**グローバル調達**」

医療ヘルスケア市場での売上予測



建材市場動向

住宅VS非住宅 投資金額推移（兆円）



2015年度見通し

富士経済及び、建設経済研究所 調べ

- ◆住宅：住宅着工は縮小傾向が継続。
- ◆非住宅：緩やかな回復が継続

重点市場

リフォーム市場

非住宅市場

市場のニーズ

安全・省エネ・高性能・デザイン

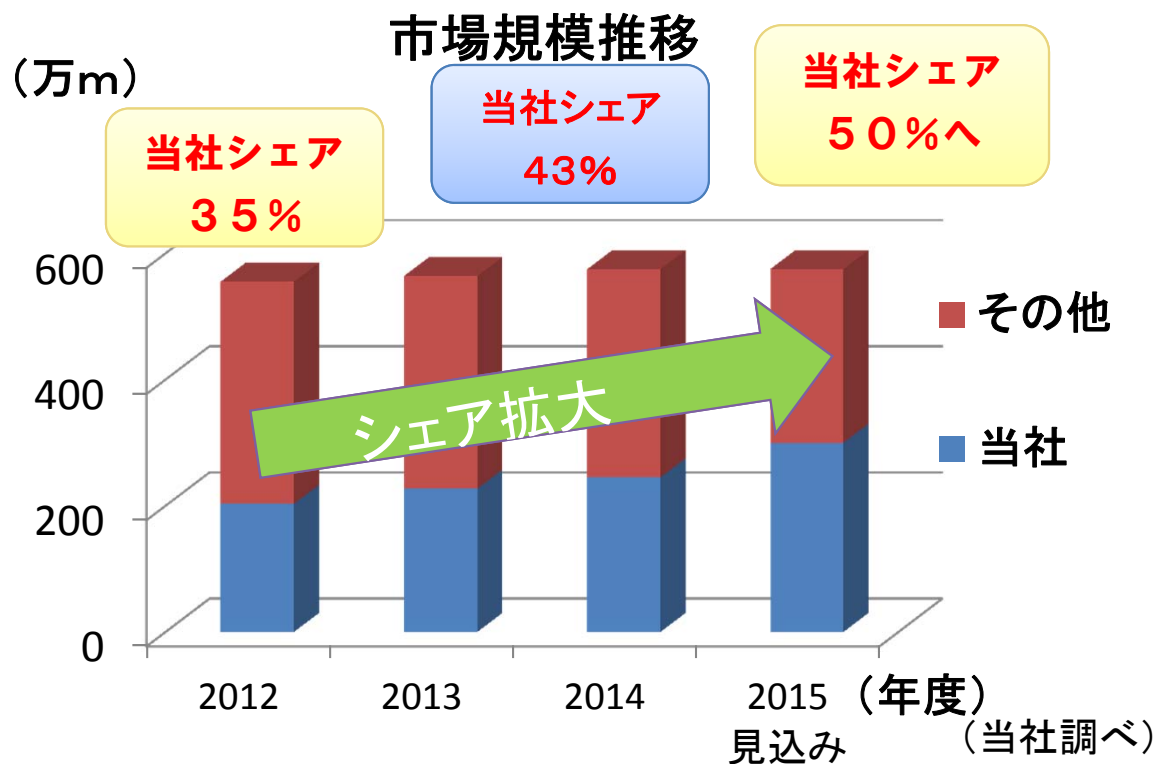
売上目標

- ◆2014年度売上結果
2012年度比 **5%UP**
- ◆2015年度売上目標
2012年度比 **7%UP**
- ◆2015年度売上予想
2012年度比 **7%DOWN**

リフォーム・非住宅市場への拡販（内装用装飾シート）

市場動向

リノベーション需要の増加に加え、東京オリンピック開催とクールジャパン効果で、内装用装飾シート需要は拡大



※内装用装飾シート：塩ビ製フィルムで、表面に木目などのデザインが施され、裏面に粘着剤が塗布されたシート。主に店舗、ホテル、オフィスなどで使用される。

当社の強み

- ◆内装用装飾シートで20年の実績
- ◆顧客からの高い信頼性
- ◆施工性の良さ
- ◆課題解決、要求具現化で、顧客期待を上回る技術

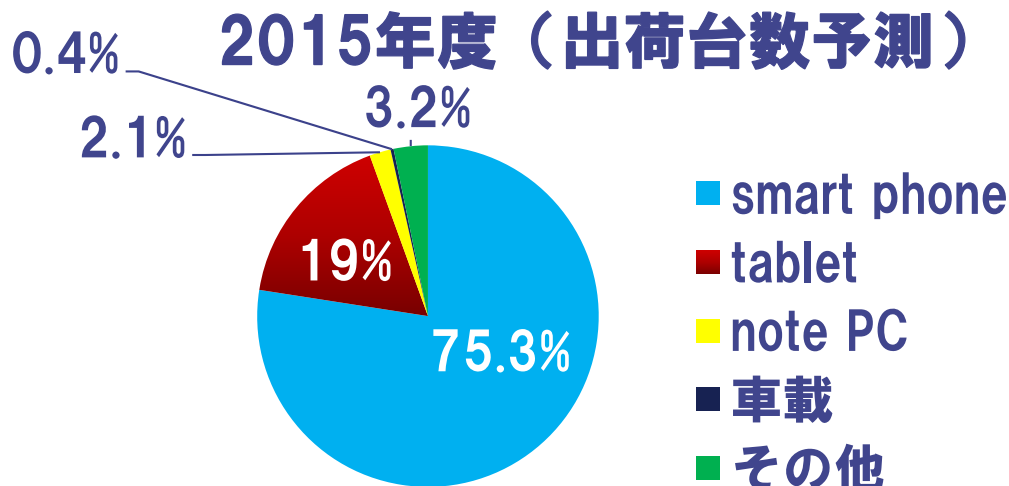
戦略

顧客ニーズが多様化する中、斬新なデザイン表現を駆使し、市場シェア拡大。

さらに

- ・和風意匠の強化(和モダン)
- ・リフォーム向け機能商品の開発によりシェア拡大を図る

タッチパネル用途のガラス市場動向



用途	ガラス面積	比率	ガラス売上
smart phone	8,700千m ²	48.5%	362億円
tablet	7,160千m ²	39.9%	294億円
note PC	1,450千m ²	8.1%	57億円
車載	130千m ²	0.7%	7億円
その他	500千m ²	2.8%	21億円
計	17,940千m ²	100%	約741億円

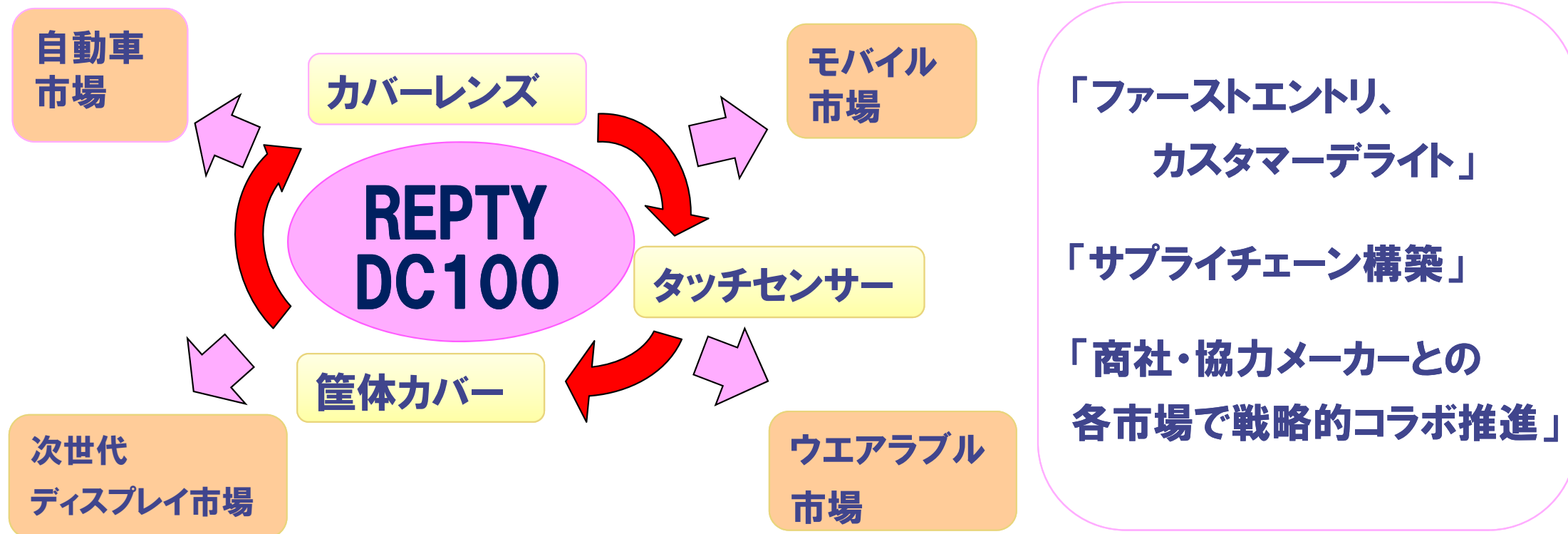
※2015年度(市場予測)

当社の強み

ガラス代替高硬度フィルム REPTY® DC100の特徴

- 軽い (vsガラス)
- 割れない
- 曲げられる
- 加工性の大幅向上
- 高耐久性 (vs他社品)
- 高硬度(9H)+曲げられる
- 高硬度(9H)+割れない
- ガラスのような高級感

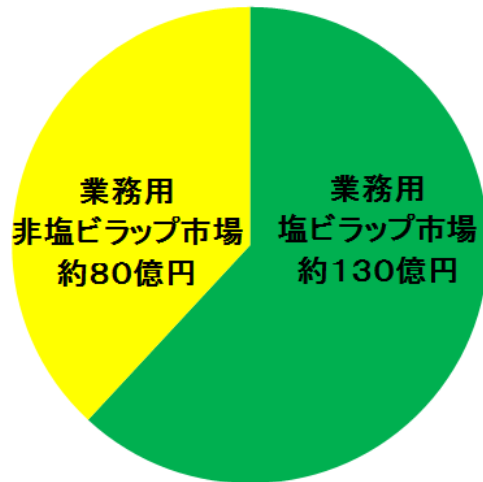
REPTY® DC100の戦略



REPTY® DC100の現在の状況

- ・量産機が2014年秋に立ち上がり、サンプル提供開始
- ・タブレット、アクセサリなど数点の商材で、2015年5月から量産流動開始
- ・来年の各種商材、モデルへと採用見込み

業務用ラップの国内市場動向

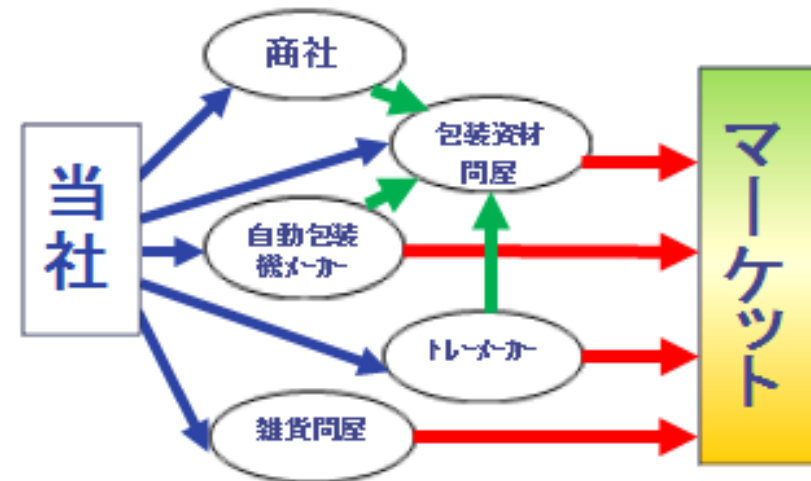


塩ビラップの市場シェアは1996年を境に減少傾向にあったが、環境に対する懸念が払拭されるにつれ見直しが進み「グリーン購入ネットワークガイドライン改定」により塩ビ回帰の流れが明らかになった

当社の強み

2012年「業界初」の事業統合により誕生したリケンファブロ(株)を中核に事業展開

- 多岐に渡る商流網を所有
(競合他社は単一商流が多い)
- 「No.1」の顧客ニーズ対応力
(Quality , Cost , Delivery)



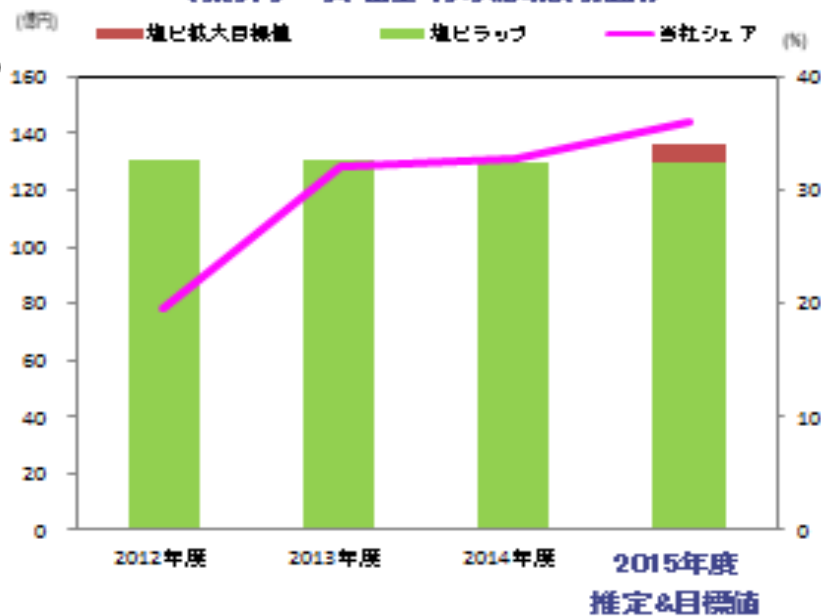
戦略 & 目標

食品スーパー等のエンドユーザーに対し、塩ビ化提案を積極的に行ない
塩ビラップ需要を拡大する

⇒2015年度は前年比+2%の「シェア36%」を目指し鋭意活動中
事業統合のシナジー効果を最大限に発揮し、トップメーカーとして盤石の
地位を固め、塩ビ市場における**圧倒的主導権**を握る



業務用ラップ市場金額推移当社シェア
(業界データ 富士キメラ総研より提供)



単位：億円

年度	主な設備投資	総額	減価償却費	研究開発費
2013年度 (実績)	国内 エラストマー増設 インドネシア 医療用コンパウンド新設	37	28	12
2014年度 (実績)	国内 光学用フィルム増設 米国 エラストマー増設 インドネシア コンパウンド増設	46	32	12
2015年度 (計画)	中国 コンパウンド工場増設 ベトナム コンパウンド工場新設 米国 塩ビコンパウンド工場増設	55	36	13

※メンテナンスを含む。

配当金

安定配当

(円、%)

	中間	期末	通期	年間配当性向 (連結)	純資産配当率 (連結)
2012年3月期	4.00	5.00	9.00	27.8	1.7
2013年3月期	4.00	5.00	9.00	40.2	1.6
2014年3月期	4.00	5.00	9.00	28.0	1.5
2015年3月期	4.00	5.00	9.00	28.4	1.4
2016年3月期 (予想)	5.00	5.00	10.00	22.2	1.5

※2016年3月期（予想）における配当性向及び純資産配当率は、9月末現在で把握可能な数値にて試算しております。

本資料に記載されている計画、見通し、戦略およびその他の歴史的事実でないものは、作成時点において入手可能な情報に基づく将来に関する見通しであり、さまざまなリスクおよび不確実性が内在しています。実際の業績は経営環境の変動などにより、これら見通しと大きく異なる可能性があります。また、本資料に記載されている当社および当社グループ以外の企業などにかかわる情報は、公開情報などから引用したものであり、情報の正確性などについて保証するものではありません。

お問い合わせ先

webmaster@rikentechnos.co.jp

経理部 高見